奥播磨千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡

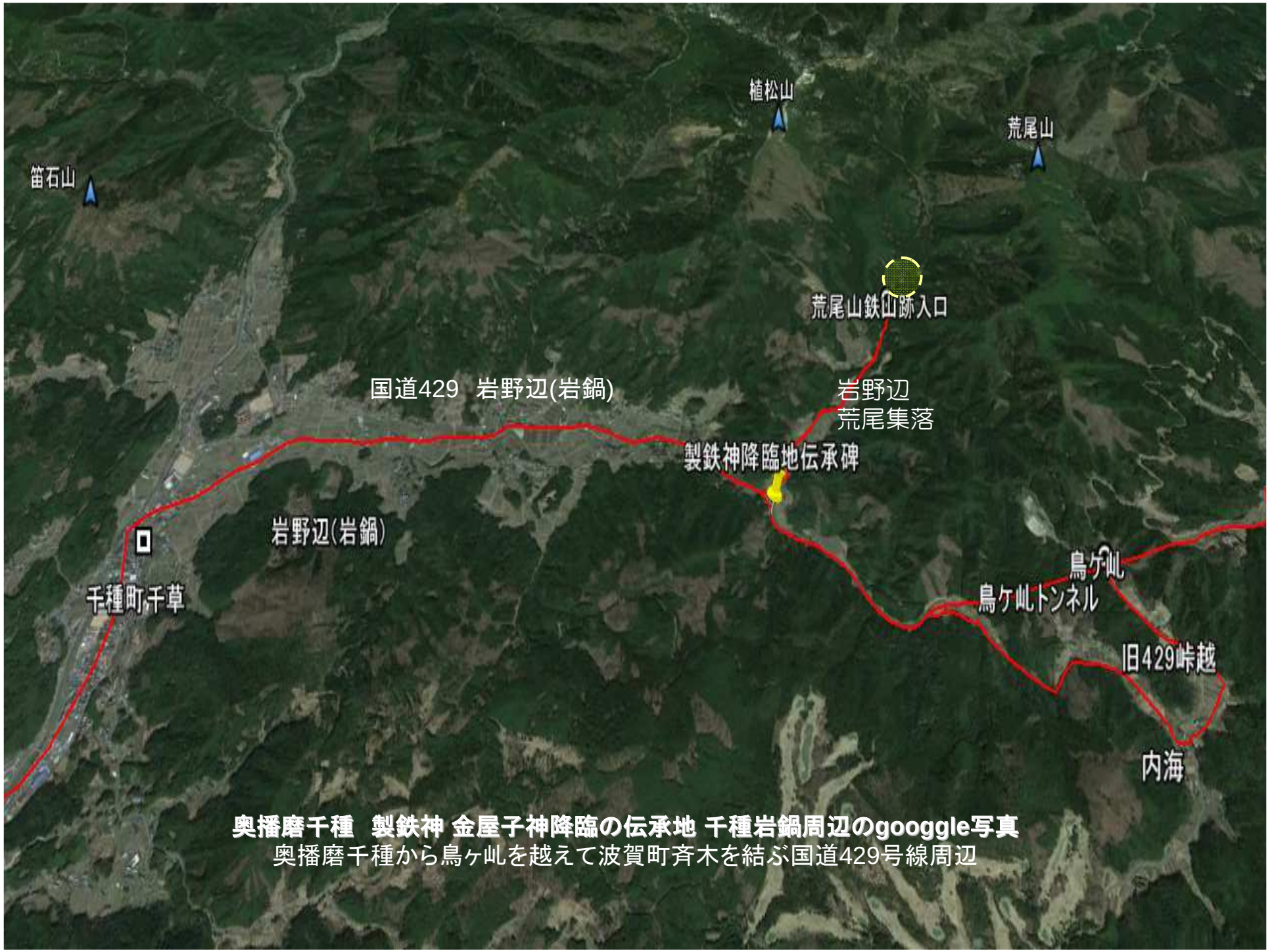
大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016.7.20.

中国山地の峰々が連なる古代からの奥播磨の製鉄地帯千種に是非訪ねたい製鉄遺跡がある。中国山地から南へ流れ下る千種川水系と揖保川水系に挟まれた源流部一帯の谷筋には千種鉄・宍粟鉄と呼ばれる古代からのたたらの郷たたら跡が点在する。 二つの川を西の千種から鳥ヶ乢の山並みを隔てて東の波賀町斉木へ結ぶ国道429号線。
古くからのたたらの郷を結ぶ街道である。
千種側からこの鳥ヶ乢を越える峠道にかかる荒尾山の麓　荒尾集落の入り口に「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 」の碑があり、また　すぐそばに、10年ほど前から荒尾山鉄山跡の案内標識が立っている。この国道429号を通るたびに気になり、資料も読んだこともあるのですが、たたら跡の現場に立ったことはなし。

ここから、荒尾山へ登る道が紹介されるようになり、その山歩きの記録の中にたたら跡が紹介されているのを幾つが見つけ、道筋が分かったので　ぜひ出かけようと。
なお、この山中から荒尾山への登山道は枝尾根をよじ登る道ではっきりした道はないと記されているので注意。

「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 」碑が建つ国道29号　千種岩野辺荒尾の郷入口　2016.7.20.
緑に包まれた千種の山並みに包まれた古いたたらの郷を結ぶ街道筋北に荒尾山が見える

▲藤無山
音水湖
引原
▲三室山
▲笠杉山
河内
公文
▲段ケ峰
三方
英田郡
千種
岩鍋
鉄山
荒尾山
斉木
波賀町
鳥ケ屻
内海
広域基幹林道
峰山線
砥峰高原
生野峠
峰山
高原
大河内発電所
小茅野
野々隅原
黒尾山▲
安積
辻の坂峠
一宮町
伊和神社
東市場
千種川水系
志文川(千種川)
佐用町
下三河
切窓峠
佐用町下野
揖保川水系
市川水系
神河町
寺前
佐用郡
山崎
神崎郡
中国山地千種･宍粟　三つの水系　たたらの山並を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線
千種ー鳥が屻トンネル-波賀-一宮-辻の坂峠 - 広域基幹林道 - 砥峰高原 -神埼町寺前
(西)　千種川水系→鳥が屻→揖保川水系→播州高原(林道峰山線)→市川水系　(東)



奥播磨千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋周辺のgooggle写真
奥播磨千種から鳥ヶ山を越えて波賀町斉木を結ぶ国道429号線周辺

千種 天児屋鉄山跡

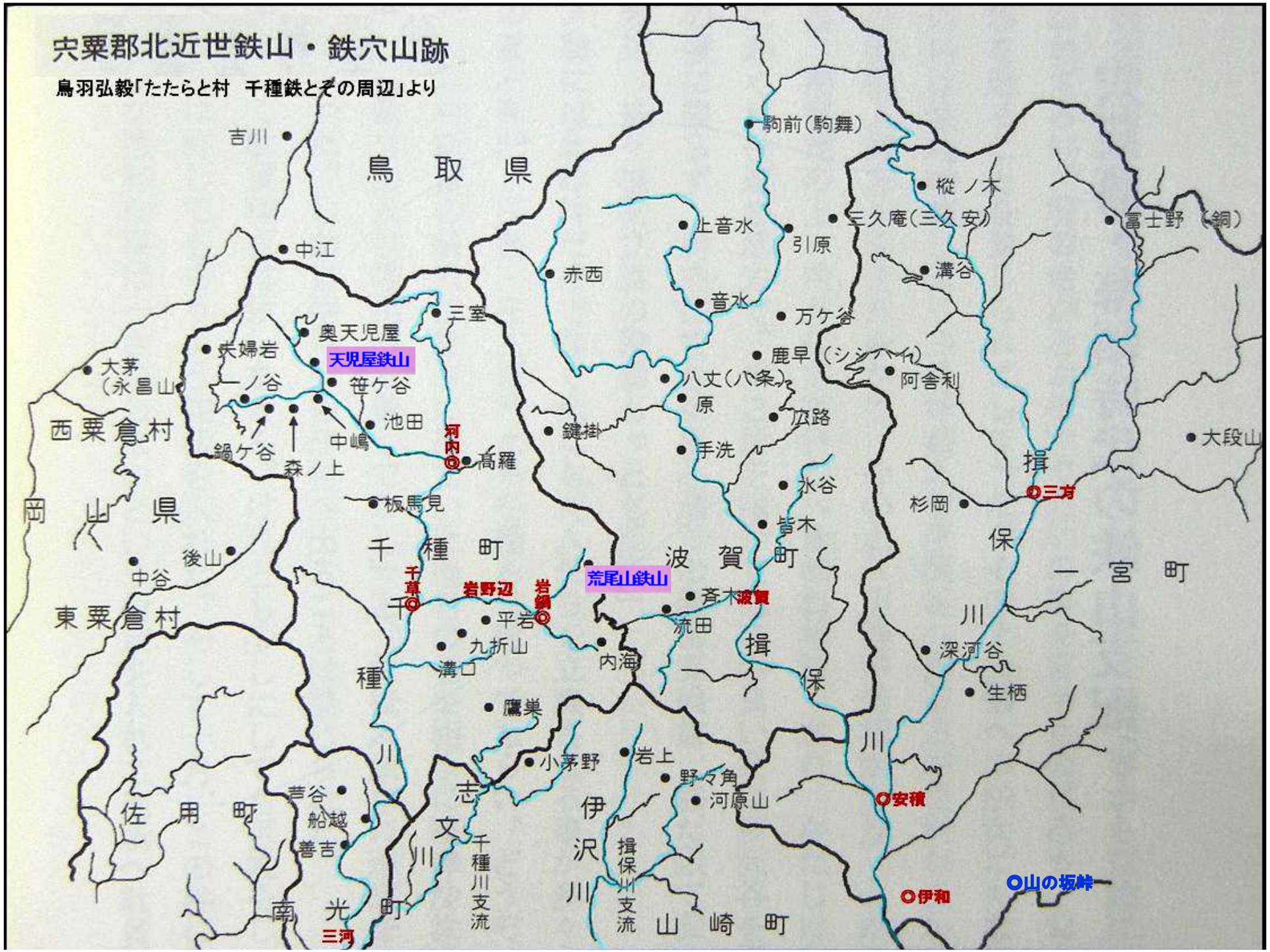
千種川

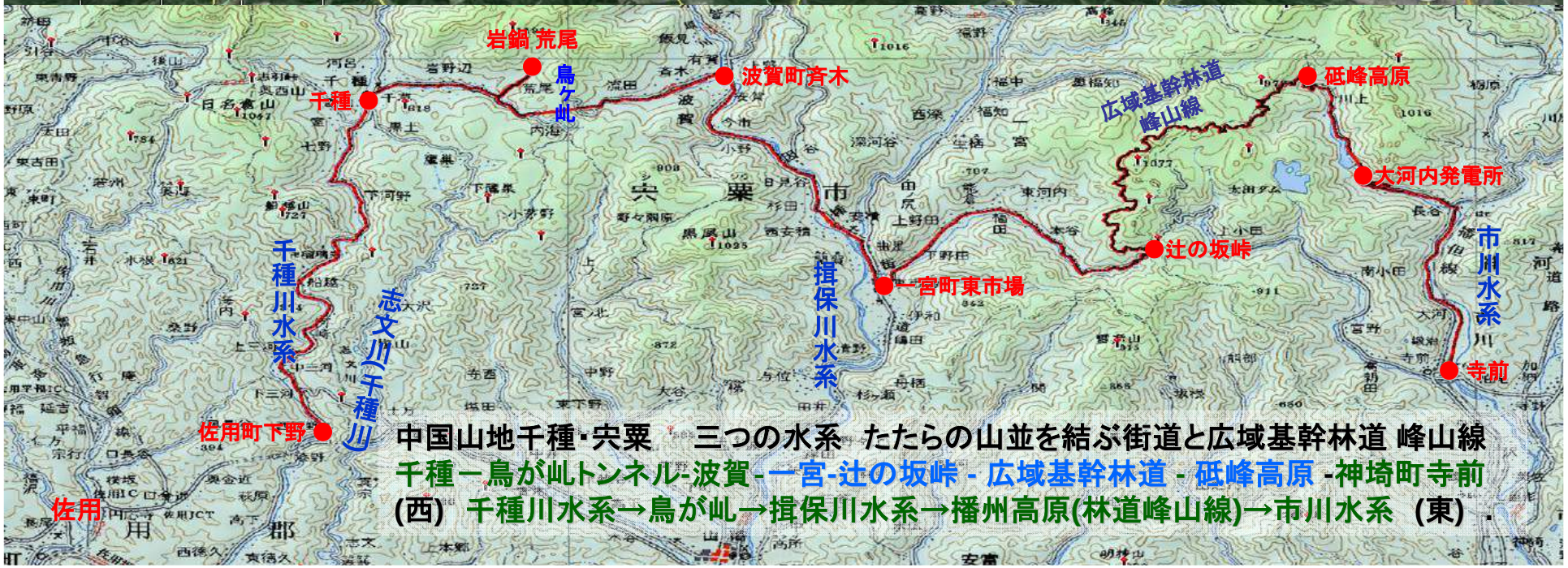
主要遺跡名

1 才金B遺跡（上月町）
2 金屋中土居遺跡（上月町）
3 カジ屋遺跡（佐用町）
4 山平B遺跡（佐用町）
5 永谷B・C遺跡（佐用町）
6 坂遺跡（佐用町）
7 西下野製鉄遺跡（南光町）
8 滝谷U遺跡（佐用町）
9 安積山遺跡（一宮町）
10 小茅野後山遺跡（山崎町）

古代製鉄発祥伝承地の碑
千種　岩鍋

播磨北部（佐用郡・宍粟郡）の製鉄遺跡


宍粟郡北近世鉄山・鉄穴山跡
鳥羽弘毅「たたらと村　千種鉄とその周辺」より
鳥　取　県
吉川
中江
駒前(駒舞)
縦ノ木
三久庵(三久安)
富士野(銅)
上音水
引原
溝谷
赤西
音水
万ケ谷
三室
奥天児屋
夫婦岩
天児屋鉄山
大茅
(永昌山)
一ノ谷
笹ケ谷
鹿早(シシハイ)
八丈(八条)
阿舎利
原
広路
池田
鍵掛
大段山
西粟倉村
鍋ケ谷
中嶋
森ノ上
河内
高羅
手洗
揖
水谷
三方
杉岡
板馬見
皆木
岡　山　県
後山
千　種　町
波　賀　町
保
中谷
荒尾山鉄山
一　宮　町
千草
岩野辺
岩鍋
斉木
波賀
東粟倉村
平岩
流田
川
九折山
揖
深河谷
内海
溝口
保
生栖
種
鷹巣
川
川
小茅野
岩上
野々角
芦谷
志
河原山
安積
佐　用　町
船越
伊
善吉
文
千種川支流
沢
揖保川支流
川
川
伊和
山の坂峠
南　光　町
三河
山　崎　町



中国山地千種・宍粟　三つの水系　たたらの山並を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線

千種ー鳥が屺トンネル-波賀-一宮-辻の坂峠 - 広域基幹林道 - 砥峰高原 -神埼町寺前

(西)　千種川水系→鳥が屺→揖保川水系→播州高原(林道峰山線)→市川水系　(東)

奥播磨千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡

大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016.7.20.

「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 」碑が建つ国道29号　千種岩野辺荒尾の郷入口　2016.7.20.
緑に包まれた千種の山並みに包まれた古いたたらの郷を結ぶ街道筋北に荒尾山が見える

「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 」碑が建つ国道29号　千種岩野辺荒尾の郷入口　2016.7.20.

宍粟市指定史跡　荒尾鉄山跡

所在地　宍粟市千種町岩野辺字荒尾

【指定年月日】昭和五十七年三月五日

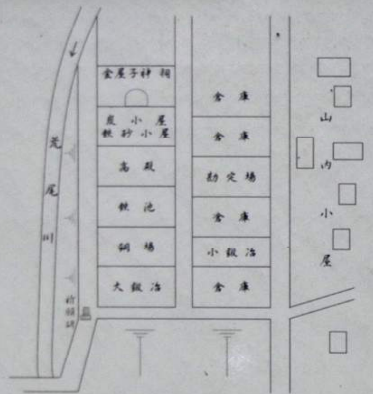
【概要】荒尾集落から川沿いを五百メートルほど登った山中に石垣が残る荒尾鉄山は高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など、複数の建物群で構成された製鉄施設の跡である。

県史跡の天児屋鉄山跡に比べるとやや小規模であるが、中央を幅二メートル程の通路が貫通し、道の左右に作業の順序に合わせて施設が配置されている点が特徴的である。

荒尾鉄山の正確な操業期間は不明であるが、おおむね江戸時代中期から明治時代前期までと推定される。鉄山跡の入口には、嘉永二年（一八四九）の年期が入る地蔵菩薩の供養碑が立てられており、以下の銘がみえる。

嘉永二酉七月廿四日
大願主　大坂泉屋
　　曽根紀ノ国屋
発起人施主　山奉行安兵衛
人足合力　山内中

大願主の太坂泉屋は、鉱山業で財を成した住友家の分家であり、江戸時代後期には天児屋など複数の鉄山を運営していた。また、荒尾の鉄山墓には三河国（愛知県）出身者の墓標があり、鉄山関係者の幅広い交流がうかがわれる。



参考文献　島崎弘毅
『たたらと村』ほか

荒尾鉄山遺跡

ここは千種町岩野辺字荒尾にあるところから「荒尾鉄山」と称し、江戸時代から明治の初年頃まで操業したようです。河内の高羅鉄山が閉山して残りの砂鉄を大勢の女の人がカマスや粉鉄(こがねお)負いで荒尾山へ背負って運んだのを見たという話が残っています。

この土地は個人の所有地で開発計画もないところから、発掘調査もなされておらず、経営者も地元の人でないこともあって詳しい事はまだ十分に知られていません。

下から上って来た正面の大きな岩の下に雨を避けるように地蔵さんを刻んだ石碑が建っています。

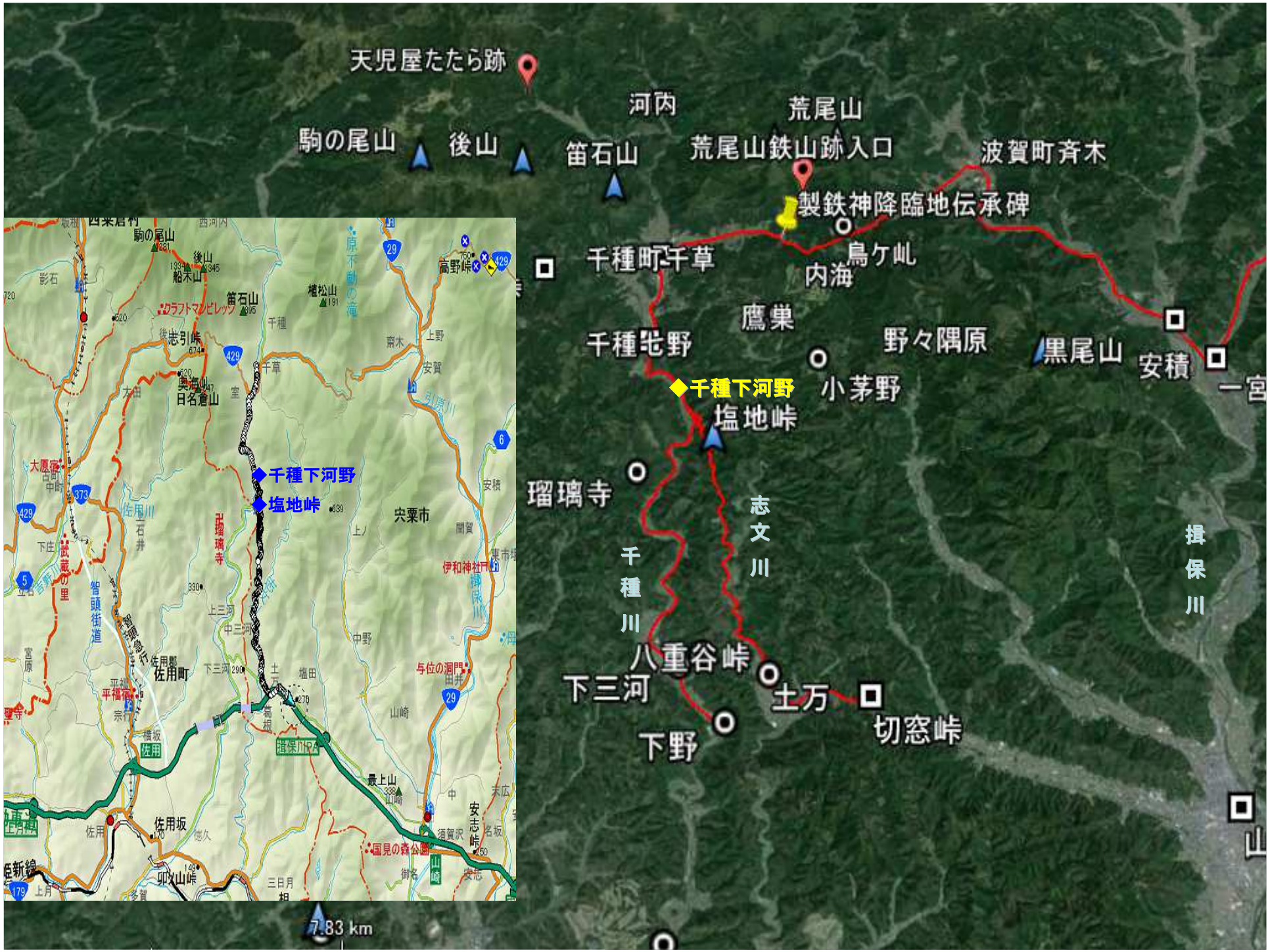
願主は大阪の泉屋(後の住友財閥の祖)と曽根(高砂市)の紀国屋(みかんの紀の国屋ではない)の二人が山内の安全やら良鉄量産を祈願したようです。嘉永三年(一八四九)幕末の頃に建てています。しかしその三十六年後には近代製鉄に押されて閉山となっています。たたら場への道と新しい林道の間に墓地がありますが一基だけ「三河国松平荘常蔵」と読み取れる石碑があり、人々の交流の広さが偲ばれます。

(文責者　上山　明)

荒尾鉄山遺跡見取図

岩野辺自治会

1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて
深い山間佐用下三河から千種川を遡って千種へ遡る
久しぶりに原チャリで 山崎断層の中 切窓峠を越える 2016.7.20. 10:00
西播磨 中国山地の南側の山中 中国自動車道が走る山崎断層の中
東 揖保川水系の山崎 と 西 千種川水系の佐用 とを分ける切窓峠を越えて佐用へ


天児屋たたら跡
駒の尾山
後山
笛石山
河内
荒尾山
荒尾山鉄山跡入口
波賀町斉木
製鉄神降臨地伝承碑
千種町千草
鳥ケ屯
内海
鷹巣
千種屯野
野々隅原
黒尾山
安積
一宮
◆千種下河野
小茅野
塩地峠
瑠璃寺
志文川
千種川
八重谷峠
下三河
土万
切窓峠
下野
揖保川
駒の尾山
後山
船来山
笛石山
槽松山
高野峠
クラフトマンビレッジ
志引峠
奥海峠
日名倉山
大鳳宿
武蔵の里
智頭街道
佐用川
佐用町
平福宿
佐用駅
佐用坂
卯ノ山峠
姫新線
瑠璃寺
宍粟市
伊和神社
与位の涸門
揖保川PA
最上山
安志峠
国見の森公園
7.83 km

切窓峠を西へ下ると狭い尾根筋に挟まれて狭い平地に田園が広がる葛根の集落
その中央を南へ千種川水系志文川が　千種川との合流点へ流れ下る

いつもは　峠を下って通過してしまう葛根の集落の田圃の中に入り
志文川が流れ下ってきた　北側土万集落の向こうに点々と続く千種のたたらの郷群に思いをはせる

葛根の田園を流れ下るたたらの郷をはぐくんだ千種川水系の志文川 2016.7.11. 11.41
中央に見える土万の集落から西へ峠を越えると 佐用・千種
まっすぐ志文川を北へ遡れば 山深い千種のたたらの道 千種・大沢や鷹巣・小茅野・内海のたたらの郷へ

佐用土万の郷の山間を抜けると見慣れた山に囲まれた下三河の郷への坂道　2016.7.20.　10:10
坂道を下ると千種・佐用の分岐のT字路。田園地帯の広がるT字路の向こうの山際に沿って
北の千種から南へ千種川が流れ下ってくる。　T字路 左: 佐用　右: 千種　である

北の千種から南の佐用へ　千種川が流れ下る下三河のT字路　2016.7.20.

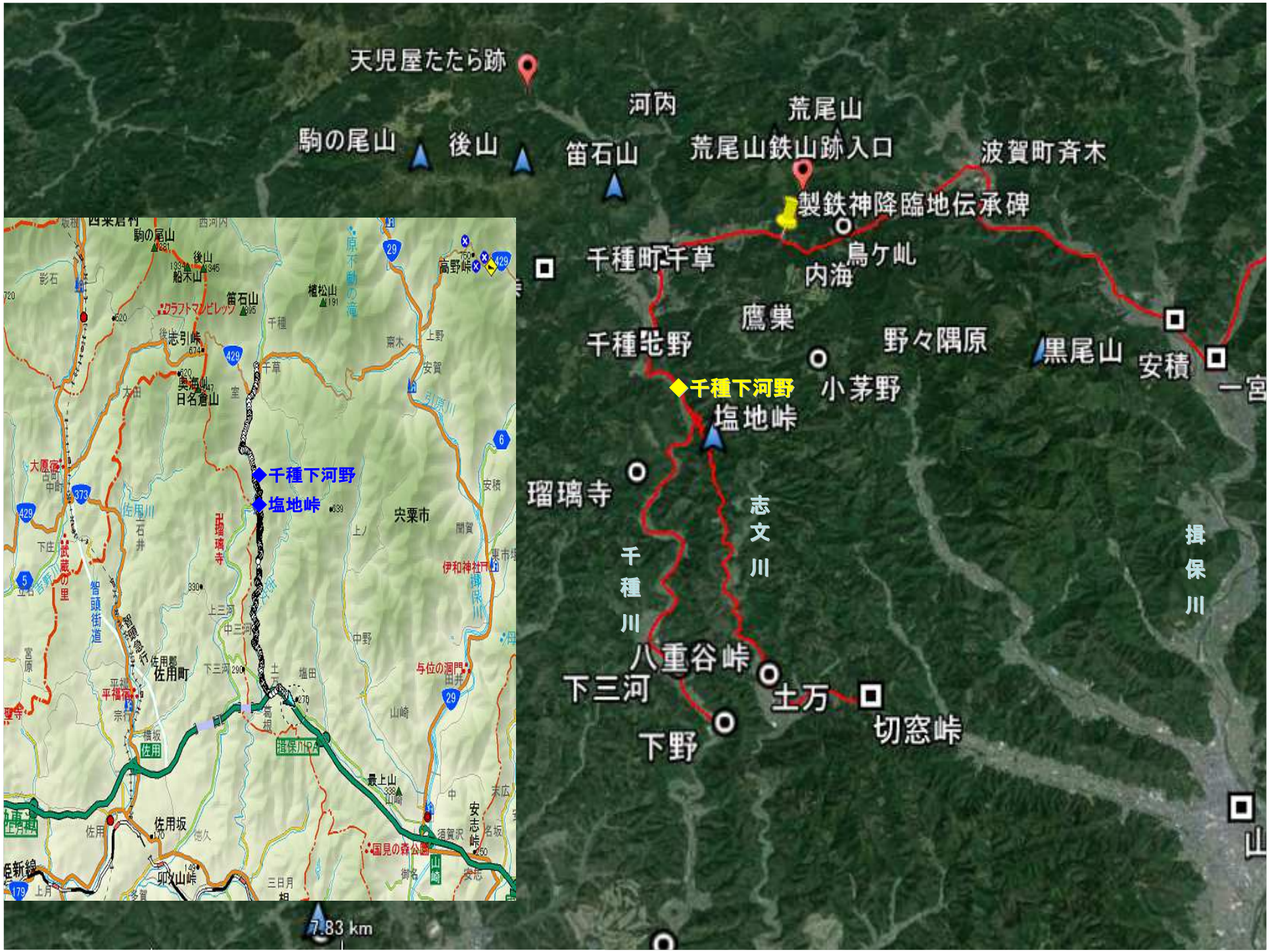
左へ行くと ひまわり畑の佐用徳久　右へ道を取るとかつての宍粟鉄･千種鉄の中心地　千種

佐用へ向かう県道53号と別れ、北へ千種川に沿って山間を千種へ遡る　　2016.7.11、三河の郷

三河の郷を抜けるとすぐそばを急流の千種川、川には釣り人の姿。
小さな集落が点在する旧南光町船越の街道筋を遡る

「千種鉄の道」の千種下河野(しもげの)の一里堂　10:27

江戸時代、主要街道沿いには一里塚が置かれましたが、それが地方に波及したものと考えられている。 タテヨコ4.1mの木造平屋建てで、屋根は茅葺の宝形造り。
かつてはここから南へ、塩地峠を越えて志文川沿いの大沢集落へ出て、山崎方面と結ぶ街道筋であり、千種産の鉄や炭が、山崎からは食料品や衣料が、それぞれ運ばれて行ったという。
この塩地峠越えの道は　江戸時代　北の千種周辺の谷筋に点在する鉄山で作られた千種鉄のほとんどが、この街道を通って、山崎から上方方面へ送られたといい、この塩地峠越の道は歴史街道「千種鉄の道」。


天児屋たたら跡
駒の尾山
後山
笛石山
河内
荒尾山
荒尾山鉄山跡入口
波賀町斉木
製鉄神降臨地伝承碑
千種町千草
鳥ケ屯
内海
鷹巣
千種屯野
野々隅原
黒尾山
安積
一宮
◆千種下河野
小茅野
塩地峠
瑠璃寺
志文川
千種川
八重谷峠
下三河
土万
切窓峠
下野
揖保川
駒の尾山
後山
船来山
笛石山
槽松山
高野峠
クラフトマンビレッジ
志引峠
奥海峠
日名倉山
大鳳宿
武蔵の里
智頭街道
佐用川
佐用町
平福宿
佐用駅
佐用坂
卯ノ山峠
姫新線
瑠璃寺
宍粟市
伊和神社
与位の涸門
揖保川PA
最上山
安志峠
国見の森公園
7.83 km

下河野の郷　さらに北へ曲がりくねった千種川谷筋を遡ると正面に千種の山並み　三室山が見え、千種の街は近い

下河野の郷　さらに北へ千種川を遡ると正面に千種の山並み　左に　右に三室山が見え、千種の街は近い

下河野の郷　振り返ると 千種川の谷筋には 斜面に広がる緑の段々畑 いつ来ても気持ちのいい千種の景色

七野の郷に入ると展望がひらけ、笛石山から後山・駒の尾山へと続く千種川の西岸の山並みを
バックに千種の街が遠望される 2016.7.11. 10:32

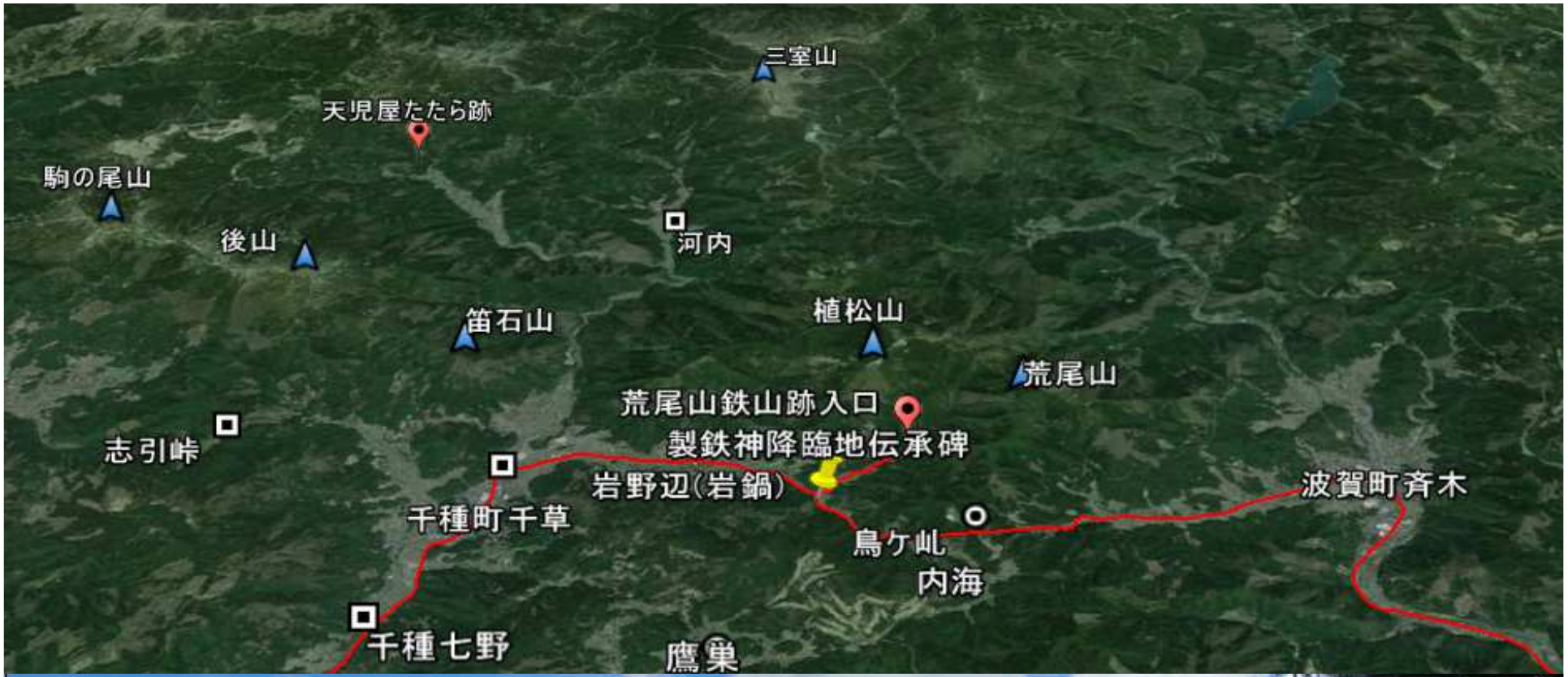
かつては大いににぎわった奥播磨山郷の中心地のひとつ千種の街も今は静かであるが、
千種川に沿って今もよく整備された街路が商店街を形成して北へ伸びている。
奥深い息自摸の谷筋に山里が点在する千種地域。 千種の街はいまもその中心であることに変わりはない。 その街路の北端が「千草」の十字路で、いつもは交差点をそのまま北へたたら跡がある集落が点在する千草・三室高原へ真っすぐ行くのですが、 久しぶりに東へ折れて 国道429号線へ。

千種川本流と東から合流する岩野辺川合流点に開けたこの地域の中心　千種の街　　2016.7.20. 10:33

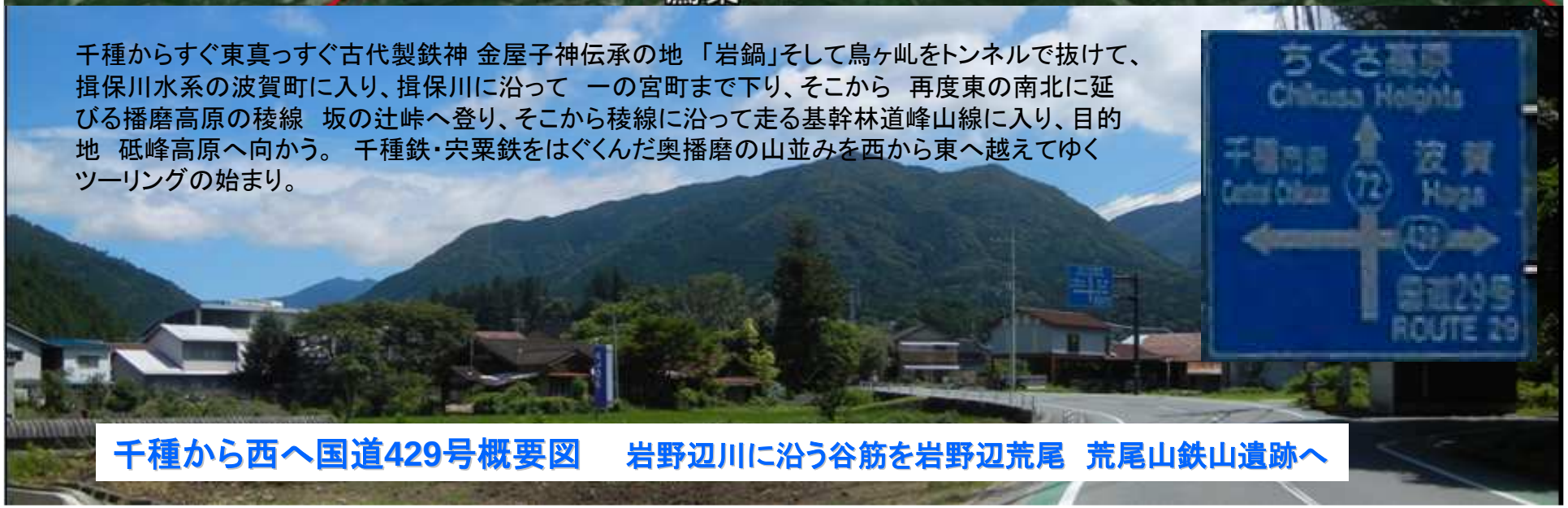
2. 千種から西へ国道429号　岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山遺跡へ

千種からまっす東へ　国道429号線が鳥ヶ畝を越えて、揖保川が流れ下る多賀町へ延びている。北には植松山から荒尾山　鳥ヶ畝の山並みが壁となり、南には黒尾山の北西に延びるなだらかな丘陵地に挟まれた広い谷筋を鳥ヶ畝より岩野辺川が流れ下る。この山深い峠越の街道の両側の山中には古いたたら跡のあるたたらの郷が点在する古くからの奥播磨千種のたたら製鉄地帯である。
この岩野辺川沿いの河岸段丘の田園地帯には　かつて岩鍋の名だった岩野辺の小さな集落が点在し、その一番奥　荒尾山の麓鳥ヶ畝の峠道にかかるところに岩野辺荒尾集落があり、この国道429号の集落への入り口のところに、「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建っている。、この国道の北、荒尾山山中の谷筋に広がる荒尾集落の奥に目指す江戸中期から明治の初めにかけて、大坂泉屋が経営した荒尾鉄山跡がひっそりと残っている。資料や天児屋たたらの案内等で何度か概要を読んだことはあるのですが、今もこのたたら跡の山は私有地できっちり調査されてはいないと聞く。

千種を訪れるたびに　帰りにはいつも国道429号。
「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」の碑や荒尾集落入口にある「荒尾山鉄山遺跡跡」の案内標識を眺めるのですが、荒尾山のたたら跡に足を踏み入れたことはなく、今回が初めて。
興味津々で岩野辺川沿いに広がる岩野辺集落の田園風景を楽しみながら千種から東へ。



千種からすぐ東真っすぐ古代製鉄神 金屋子神伝承の地 「岩鍋」そして鳥ヶ屹をトンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町に入り、揖保川に沿って 一の宮町まで下り、そこから 再度東の南北に延びる播磨高原の稜線 坂の辻峠へ登り、そこから稜線に沿って走る基幹林道峰山線に入り、目的地 砥峰高原へ向かう。 千種鉄・宍粟鉄をはぐくんだ奥播磨の山並みを西から東へ越えてゆくツーリングの始まり。



千種から西へ国道429号概要図　　岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山遺跡へ

千種から西へ国道429号 千草で 岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾 荒尾山鉄山遺跡へ 10:39

千種から西へ国道429号 千草で　正面に植松山が見える　2016.7.20.　10:40

千草の街から　国道429号を東へ　岩野辺地区に入る　2016.7.20　10:43

正面に鳥が屺の山並みが立ちはだかっている　.

千種の周辺には「屺」とつく地名がいくつも残っているが、稜線や尾根を越える「峠」の意味でつかわれている

千草の街から　国道429号を東へ　岩野辺地区に入る　　2016.7.20

道路の右を岩野辺川流れ下り、田園地が広がる広く明るい谷筋である　　.

国道南の岩野辺川岸より　岩野辺地区を眺める　2016.7.20.

岩野辺川正面に荒尾山・鳥ヶ屺の山並　2016.37.20.

岩野辺より　振り返って西側千種の街& 千種川西岸　岡山県境の山並　2016.7.20.

右端に千種の街の象徴　笛石山　その後ろに後山が重なって見えている　10:46　　.

国道29号から離れ、南の岩野辺川の丘から荒尾山・鳥が屹の山並　2016.7.20.

岩野辺の集落を抜け、鳥が屺の峠道にかかる　交通量も少なく静かな山中である　2016.7.20.

、国道道脇に「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口　2016.7.20.

国道道脇に「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口　2016.7.20.　10:51

たたらの神様
金屋子神降臨の地

岩野辺の人々はここを「山の神」と呼んで神聖視してきた所です。元来岩野辺の縁故地であり、周囲の山々と同様に一反五畝歩の分割地として個々が管理しています。

谷川に面した所に桂の老木が茂り、根元に小さな祠がお祀りしてある、人々はこれを「金屋子さん」と言って、丁寧に扱いお祭りしている。特に出雲地方の人々は「我々の元祖だ。」「ルーツはここか。」と言って今でも一年に二組や三組は見に来たり、お参りしています。

出雲の旧広瀬町「金屋子神社」の祭文（のりと）によると、高天原から最初に地上へ降臨した所は播磨国志相郡岩鍋という所で、「我は民草を救い、天皇を助ける為に天降りをした。今から鍋作りをするので、よく見習うように」と言って、近くの岩を砕いて鉄を採り出して、鍋釜を作っていたが、「ここでいつまでも居る訳にはいかない。西の方の人が私が行くのを待っているから」と言って白鷺に乗って出雲に至り西比田という所の桂の木に止まっているのを村人が見つけ、そこに住居となる大きな社を建て、村人と共に鉄を取り鍋釜を作り豊かにくらしたということが書いてあります。

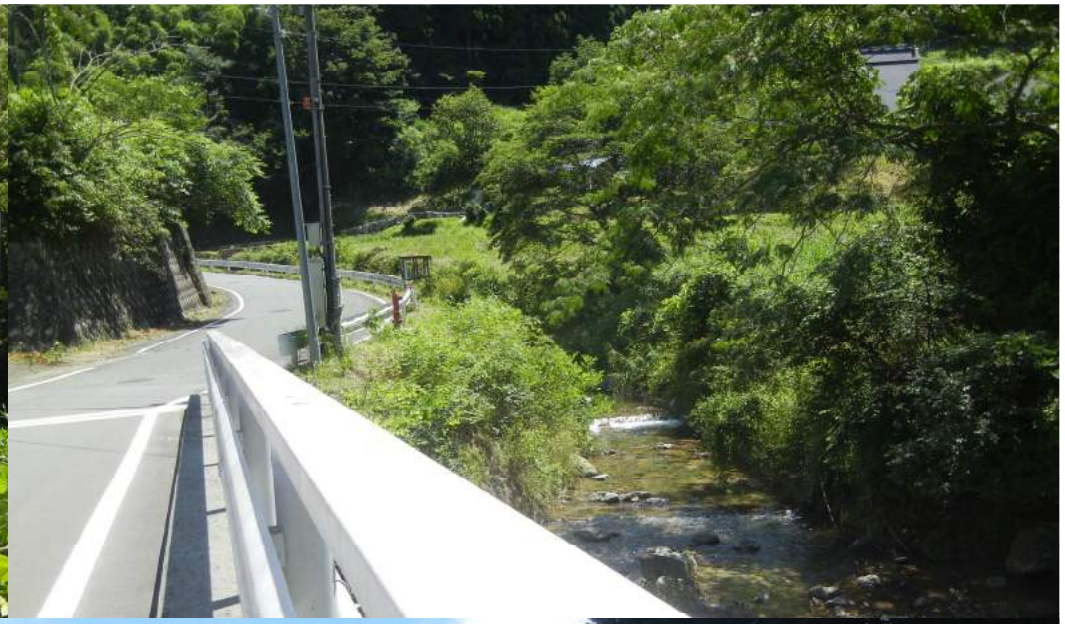
最初の降臨した所で、岩を砕いて鍋を作ったところから「岩鍋」という地名をつけた。と岩野辺の元の地名が「岩鍋」であったことも書いてあります。

尚、金屋子神の祠はこれより奥２．２ｋｍの地にあります。

（文責者　上山　明）

平成二十五年設置　岩野辺自治会

碑の北側　森の奥に岩野辺荒尾山集落がある
樹木の奥に頂が見えるのが、荒尾山　この山中の谷筋に荒尾山たたら遺跡が残っている。



国道429入口から奥の谷筋　荒尾集落へ入る　　2016.7.20.

道脇には北から細い谷川が流れ下ってくる

荒尾集落へ入る　山々に取り囲まれた小さな荒尾川の谷筋を一本道が奥へ登ってゆく
両側の山の傾斜地に細長く園地があり、集落の家並はその奥
また　集落の背後　奥に荒尾山の頂が見えている　　2016.7.20.

荒尾集落は10数軒でしょうか？ 小さな集落　 2016.7.20.

すぐ裏の杉林で集落を抜け、林道が荒尾山山腹に延びていました

集落を抜けるとさらに奥へ荒尾川に沿って林道へ道が続く

荒尾山鉄山跡入口

荒尾鉄山遺跡見取図

荒尾川
金屋子神祠
炭小屋
鉄砂小屋
高殿
鉄池
銅場
大鍛治
祈願碑
倉庫
倉庫
勘定場
倉庫
小鍛治
倉庫
山内小屋

荒尾の集落を抜けさらに奥へ少し行くと林道の入り口　獣除け柵があり、
傍らに荒尾山登山口の案内標識がたっていました　荒尾山鉄山はこの奥である　2016.7.20.　11:01

荒尾の集落を抜けさらに奥へ林道を行く　2016.7.20.

金網柵から入ってすぐ　林道わきの高台に立派に整備された荒尾家の墓が2基ありました。
このたたらの郷　そして林道の奥に広がるが荒尾の山々一帯も代々荒尾家によって　守られてきたのだろう。

杉林の中　荒尾川に沿う林道を少し登ると林道が左へカーブする角に看板が立っているのが見える
この場所が、案内板のある道を右荒尾山鉄山跡への入口である　　2016.7.20.

地元の人たちによって建てられた案内板が建つ荒尾川沿いの荒尾山鉄山跡への入口　2016.7.20.

荒尾鉄山遺跡

ここは千種町岩野辺字荒尾にあるところから「荒尾鉄山」と称し、江戸時代から明治の初年頃まで操業したようです。河内の高羅鉄山が閉山して残りの砂鉄を大勢の女の人がカマスや粉鉄（こがねお）負いで荒尾山へ背負って運んだのを見たという話が残っています。

この土地は個人の所有地で開発計画もないところから、発掘調査もなされておらず、経営者も地元の人でないこともあって詳しい事はまだ十分に知られていません。

下から上って来た正面の大きな岩の下に雨を避けるように地蔵さんを刻んだ石碑が建っています。

願主は大阪の泉屋（後の住友財閥の祖）と曽根（高砂市）の紀国屋（みかんの紀の国屋ではない）の二人が山内の安全やら良鉄量産を祈願したようです。嘉永三年（一八四九）幕末の頃に建てています。しかしその三十六年後には近代製鉄に押されて閉山となっています。たたら場への道と新しい林道の間に墓地がありますが一基だけ「三河国松平荘常蔵」と読み取れる石碑があり、人々の交流の広さが偲ばれます。

（文責者　上山　明）

荒尾鉄山遺跡見取図

岩野辺自治会

荒尾川沿いの道の向こうに荒尾山鉄山跡への入口がすぐ見える　2016.7.20.

古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地　千草岩鍋にある荒尾山鉄山製鉄遺跡　　2016.7.20.

以前から国道429号線鳥ヶ屺の山越え道を通る毎に気にかかっていましたが、緑に包まれた山中に静かに残っていました。
夏の真っ青な空に堂々とした姿をくっきりと見せる鳥が屺の山々　緑の山中を流れ下る谷川　たたらの郷　岩野辺　荒尾の集落の奥　杉木立に包まれた荒尾山の林道に分け入ると　水しぶきを上げる谷川に沿って　幾段にも並んだ石組みが現れた。 遺跡入口　足元に小さな石仏が祀られて鎮座する大岩は神々しく　背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層　この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。 うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。 遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。
国道429号線の街道筋からは見えてこない　素晴らしいたたらの郷がひっそりと緑に包まれてありました。

荒尾山鉄山跡入口にある地蔵さんを刻んだ祈願碑　　2016.7.20.
碑の裏に刻まれた願文から、 願主はこの鉄山を運営していた大坂泉屋らが山内の安全や
良質の鉄の量産を祈願したものと言われる。

荒尾山鉄山の入口　大岩と荒尾山鉄山の案内板　2016.7.20.　11:09

宍粟市指定史跡　荒尾鉄山跡

所在地　宍粟市千種町岩野辺字荒尾

【指定年月日】昭和五十七年三月五日

【概　要】荒尾集落から川沿いを五百メートルほど登った山中に石垣が残る荒尾鉄山は高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など、複数の建物群で構成された製鉄施設の跡である。

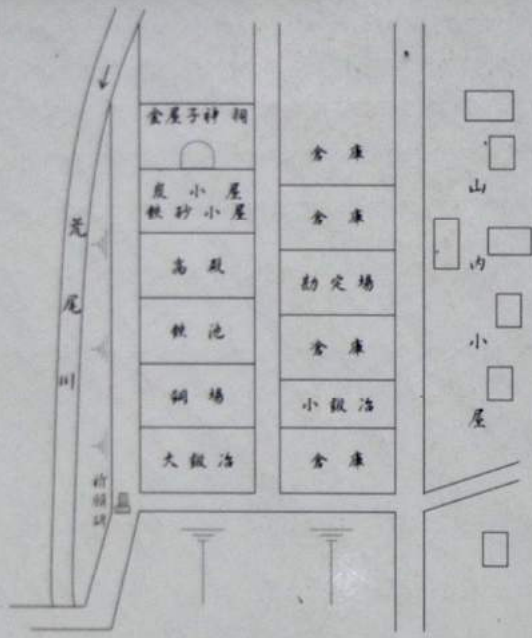
県史跡の天児屋鉄山跡に比べるとやや小規模であるが、中央を幅二メートル程の通路が貫通し、道の左右に作業の順序に合わせて施設が配置されている点が特徴的である。

荒尾鉄山の正確な操業期間は不明であるが、おおむね江戸時代中期から明治時代前期までと推定される。鉄山跡の入口には、嘉永二年（一八四九）の年期が入る地蔵菩薩の供養碑が立てられており、以下の銘がみえる。

嘉永二酉七月廿四日
大願主　大坂泉屋
曽根紀ノ国屋
発起人施主　山奉行安兵衛
人足合力　山内中

大願主の太坂泉屋は、鉱山業で財を成した住友家の分家であり、江戸時代後期には天児屋など複数の鉄山を運営していた。また、荒尾の鉄山墓には三河国（愛知県）出身者の墓標があり、鉄山関係者の幅広い交流がうかがわれる。

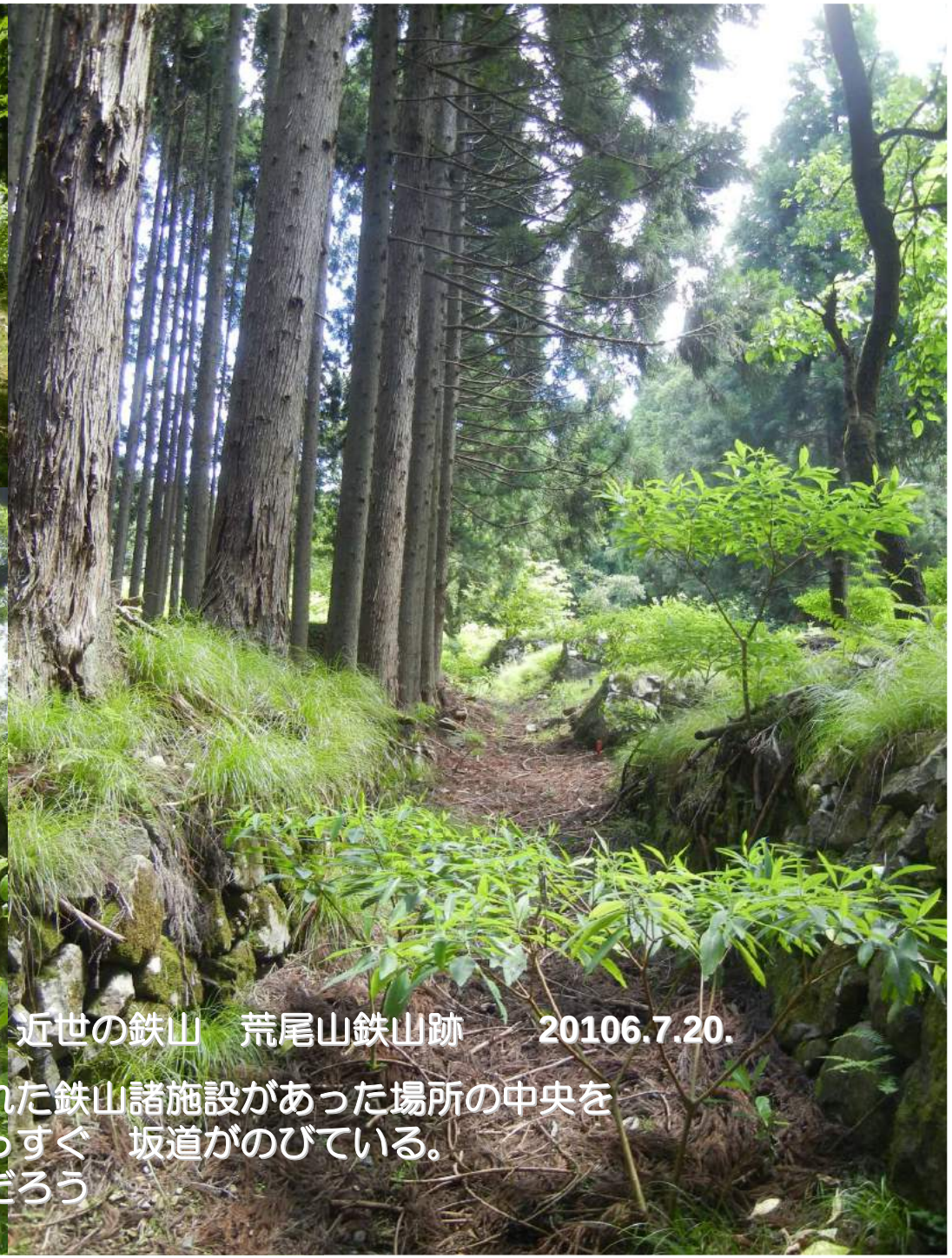
参考文献　島崎弘毅
『たたらと村』ほか



江戸中期から明治初め　近世の鉄山　荒尾山鉄山 施設配置図

江戸中期から明治初め　近世の鉄山　荒尾山鉄山跡　　20106.7.20.

石組みで段々に整地された鉄山諸施設があった場所の中央を
高殿のある上部奥へ真っすぐ　坂道がのびている。
この道が鉄山の中央道だろう



江戸中期から明治初め　近世の鉄山　荒尾山鉄山跡　　20106.7.20.

石組みで段々に整地された鉄山諸施設があった場所の中央を
高殿のある上部奥へ真っすぐ　坂道がのびている。
この道が鉄山の中央道だろう

荒尾山鉄山跡　20106.7.20.

鉄山諸施設があった石組みで段々に整備された台地には　間伐した杉の枝や草木や
低木などが表面を覆っていて　鉄山諸施設の痕跡はよくわからない。

荒尾山鉄山跡　左に荒尾川が流れる石組みで段々に整備された最上部(中央道左)　20106.7.20.

この周辺が高殿と思われるが、大きな石組みの上か手前かよくわからぬ

荒尾山鉄山跡　最上部(中央道左)　この立派な石組みの上が高殿と思われる　20106.7.20.

荒尾山鉄山跡　最上部(中央道左)　　高殿と思われる石組みの上　20106.7.20.

荒尾山鉄山跡　最上部(中央道左)　　高殿と思われる石組みの上

荒尾山鉄山跡　最上部(中央道右)

荒尾山鉄山跡　最上部

荒尾山鉄山跡　上部

荒尾山鉄山跡　上部

荒尾山鉄山跡　左に荒尾川が流れる石組みで段々に整備された台地を上から眺める(中央道左)　20106.7.20.

荒尾山鉄山跡　上部の台地で見つけたたたら　鉄slag　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡　上部の台地で見つけたたたら　鉄slag　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡　中央道右山側台地から眺める　2016.7.20.
左奥に高殿跡のある石組みが見える

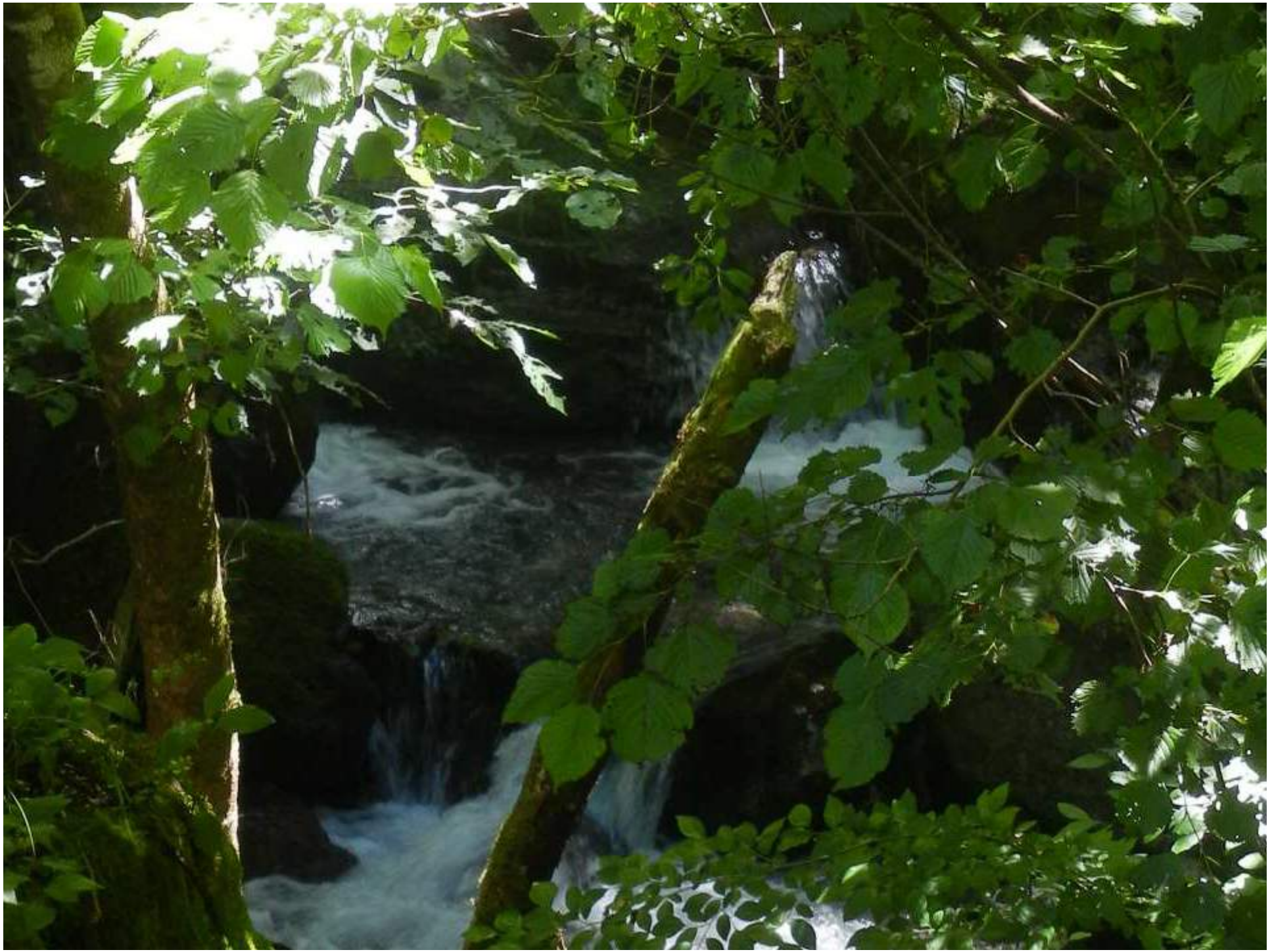
荒尾山鉄山跡　中央道 2016.7.20.

荒尾山鉄山跡　遺跡の左を流れ下る荒尾川に沿って　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡　入口周辺を流れ下る荒尾川　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡を後にもと来た林道を戻る　2016.7.20.　12:06

杉木立の中の林道を戻る　2016.7.20.



林道入口に戻って　荒尾川岸の木陰に入って　川音を聞きながら昼食に　12:10

ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」

営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで　鉄が吹かれたのか？」 興味津々でした。
緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。本当に久しぶりに見る緑の中にうずもれたたたら跡　心地よい空間でした。

◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。

◎ ただ　あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つが見つけることができました。

荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中　余計に神々しく
遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、
一層　この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。

また、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので　あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、
見つけられませんでした。(後日　千種町に照会しましたが、もう　今では祠跡はわからないでしょうということでした)

集落の背後に荒尾山がそびえる荒尾集落に戻ってくる　2016.7.20.　12:50

旧国道429「鳥ヶ屺」の峠はどんなとこ？ 行ってみました

国道429　鳥ヶ屺

旧道分岐

鳥ヶ屺　トンネル分岐から一気に内海の集落を抜けて　曲がりくねった坂道を 「Ωループ」状に登り詰めると道は緑の中平坦になり、鳥のトサカのモニュメントがある峠に
ここが「鳥ケ屺」でした　**2016.7.20.** 12:38

「鳥ヶ屺」　国道429号はこの下をトンネルで抜けている　2016.7.20.　12:38

荒尾山の登山口の標識が道の左に立っている

鳥ヶ山の由来の案内モニュメント　2016.7.20.　12:40

峠からもと来た旧道を引き返す　　2016.7.20.　12:40
奥播磨では奥深い山の中に隠れ里のように集落があり、
それをつなぐ道が山を越えてつながっている

古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地　千草岩鍋にある荒尾山鉄山製鉄遺跡
以前から国道429号線鳥ヶ屺の山越え道を通る毎に気にかかっていましたが、緑に包まれた山中に静かに残っていました。
夏の真っ青な空に堂々とした姿をくっきりと見せる鳥が屺の山々　緑の山中を流れ下る谷川　たたらの郷　岩野辺　荒尾の集落の奥　杉木立に包まれた荒尾山の林道に分け入ると　水しぶきを上げる谷川に沿って　幾段にも並んだ石組みが現れた。 遺跡入口　足元に小さな石仏が祀られて鎮座する大岩は神々しく　背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層　この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。 うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。 遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。
国道429号線の街道筋からは見えてこない　素晴らしいたたらの郷がひっそりと緑に包まれてありました。
千種鳥ヶ屺の山並の山裾に広がるたたらの郷　岩野辺の田園を眺めながら千種の街へ下ってゆく。

「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口を通過して千種へ　2016.7.20.　12;50

、国道道脇に「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口　2016.7.20.

岩野辺川正面に荒尾山・鳥ヶ屺の山並　2016.37.20.

宍粟市指定史跡　荒尾鉄山跡

所在地　宍粟市千種町岩野辺字荒尾

【指定年月日】昭和五十七年三月五日

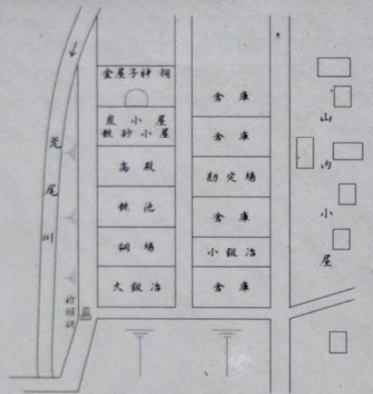
【概要】荒尾集落から川沿いを五百メートルほど登った山中に石垣が残る荒尾鉄山は高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など、複数の建物群で構成された製鉄施設の跡である。

県史跡の天児屋鉄山跡に比べるとやや小規模であるが、中央を幅二メートル程の通路が貫通し、道の左右に作業の順序に合わせて施設が配置されている点が特徴的である。

荒尾鉄山の正確な操業期間は不明であるが、おおむね江戸時代中期から明治時代前期までと推定される。鉄山跡の入口には、嘉永二年（一八四九）の年期が入る地蔵菩薩の供養碑が立てられており、以下の銘がみえる。

嘉永二酉七月廿四日
大願主　大坂泉屋
　　曽根紀ノ国屋
発起人施主　山奉行安兵衛
人足合力　山内中

大願主の太坂泉屋は、鉱山業で財を成した住友家の分家であり、江戸時代後期には天児屋など複数の鉄山を運営していた。また、荒尾の鉄山墓には三河国（愛知県）出身者の墓標があり、鉄山関係者の幅広い交流がうかがわれる。



参考文献　島崎弘毅
『たたらと村』ほか

荒尾山鉄山跡入口にある大岩とその下にある地蔵さんを刻んだ祈願碑　　2016.7.20.
碑の裏に刻まれた願文から、 願主はこの鉄山を運営していた大坂泉屋らが山内の安全や
良質の鉄の量産を祈願したものと言われる。

奥播磨千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡

大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016.7.20.

7月20日　朝早く飛び起きて　ワクワクで出かけてきた久しぶりの千種のたたら跡　古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯。

ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」
営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで　鉄が吹かれたのか？」 興味津々でした。 緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。 遺跡は私有地のためなのか、まだ詳細調査されぬままのようです。

◎　案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間　間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
◎　ただ　あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つが見つけることができました。

◎　荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中　余計に神々しく　遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐　磐座を思わせ、一層　この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じています。

近い将来この遺跡や周辺がきっちり調査され、この岩鍋の地の製鉄伝承がもっとクリヤーになっていくこにも期待したい。

一方　この荒尾山や天児屋鉄山など千種の江戸末期の鉄山が大阪泉屋の経営であったことにも興味をひかれています。
この千種の鉄山を経営した泉屋は、別子銅山で財を成し、その後住友財閥の祖となった泉屋の分家だと聞き及びますが、
「鉄」と「銅」は常に隣り合う金属・鉱石であり、金属取り出しの製錬にも共通技術があったはずと。
「分家とは言いながら技術の展開の中で、泉屋の分家が担ってきたのではなかったか??」と　常々思いを巡らしている。
また、「鉄」と「銅」の近い関係を視点に　住友・泉屋が担った産業育成。地域振興の役割などについても
さらに興味を持って　眺めてゆきたいと思っている。

また、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので　あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、
見つけることができませんでした。
(後日　千種町に照会しましたが、もう　今では祠跡はわからないでしょうということでした)

暑いが、快晴の午後　たたらの郷千種の風を受けながら　満足感一杯で千種を後にする

2016.7.20.　午後　満足感一杯で　千種川沿いを佐用に向かって　原チャリを走らせながら

参考資料

1. **鳥羽弘毅氏著「たたらと村　千草鉄とその周辺で」** 1997.3.10. 千種町教育委員会

2. **【和鉄の道・Iron Road】** *by Mutsu Nakanishi*
   西播磨の古代製鉄地帯　宍粟・佐用の製鉄関連遺跡　探訪

1. 古代鉄の大王国　播磨国　「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神　金屋子神　降臨伝承の地
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf
2. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる **2013.7.19.**
   千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308chigusa00.htm
3. 奥播磨　千種川に注ぐ志文川源流　たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる **2010.7.20** .
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf
4. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる　**2009.6.21.**
   奥播磨黒尾山西北山麓　宍粟市山崎町　野々隅原 大国牧場　花のWalk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf
5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形　西播磨　砥峰高原　一面ススキが覆いつくす　砥峰高原　**2007.10.**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf
6. 産鉄の地　「御方里」の里を訪ねて　一宮町　**2004.6**.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf
7. 「御方里」周辺　安積山製鉄遺跡探訪　一宮町　**2004.2.**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf
8. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて **2003.11**.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

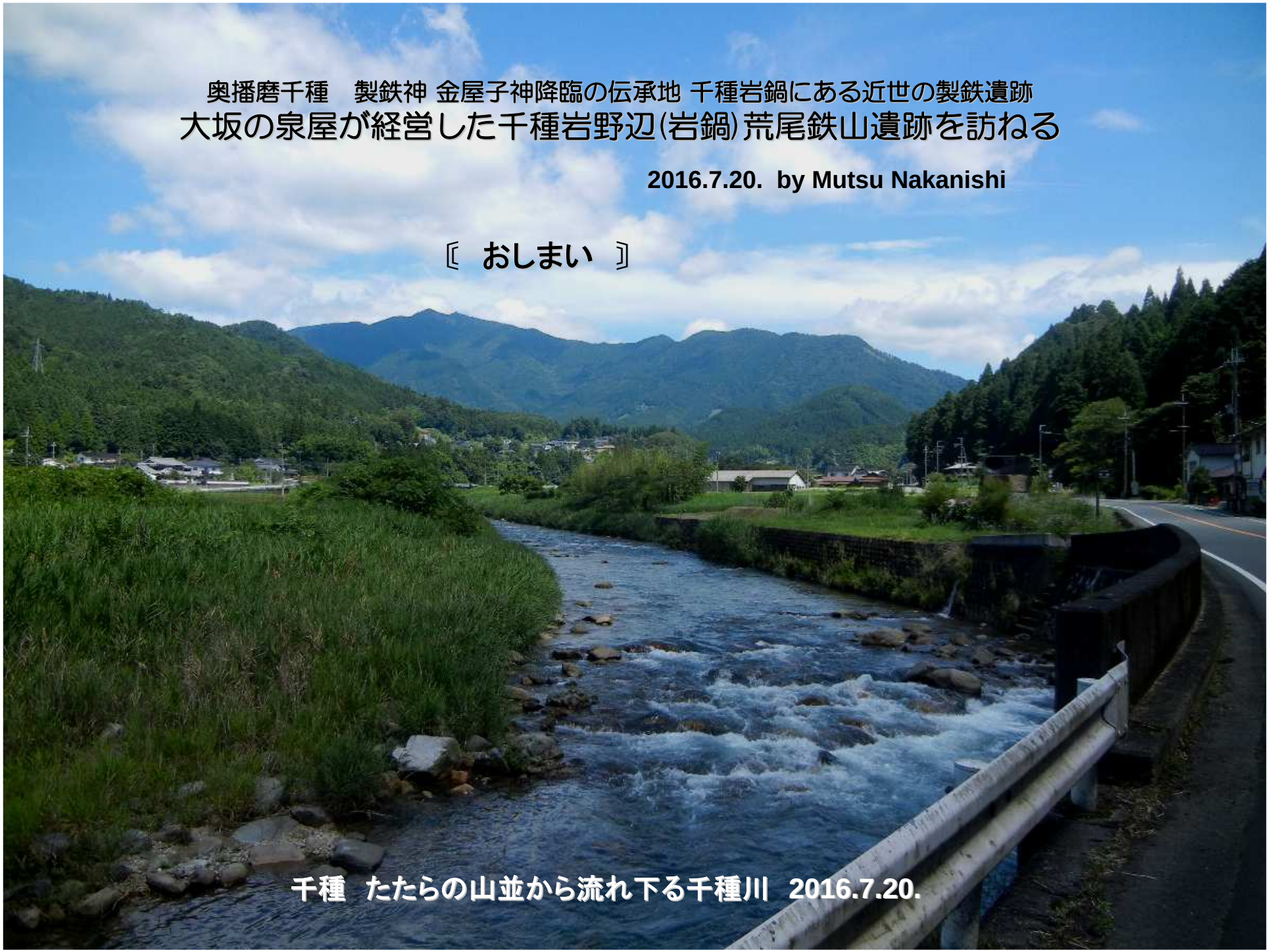
▲藤無山
音水湖
引原
▲三室山
▲笠杉山
河内
公文
▲段ケ峰
三方
英田郡
千種
岩鍋
鉄山
荒尾山
鳥ケ屻
内海
斉木
波賀町
砥峰高原
生野峠
広域基幹林道
峰山線
峰山高原
大河内発電所
小茅野
野々隅原
黒尾山▲
安積
辻の坂峠
一宮町
伊和神社
東市場
千種川水系
志文川(千種川)
佐用町
下三河
切窓峠
佐用町下野
揖保川水系
市川水系
神河町
寺前
佐用郡
山崎
神崎郡
中国山地千種･宍粟　三つの水系　たたらの山並を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線
千種一鳥が屻トンネル-波賀-一宮-辻の坂峠 - 広域基幹林道 - 砥峰高原 -神埼町寺前
(西)　千種川水系→鳥が屻→揖保川水系→播州高原(林道峰山線)→市川水系　(東)

奥播磨千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡

大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる

2016.7.20. by Mutsu Nakanishi

〖 おしまい 〗



千種　たたらの山並から流れ下る千種川　2016.7.20.